

水源は消えたがコシヒカリ育つ

逆井漫歩⑤

柏稜高校から東に抜けると信号に出会う。写真のように、その前は緑一色の水田、といっても広くはないが、四、五枚を見渡すことが出来る。七月には、おたまじゃくしが泳いでいた。地形的に見て谷に出来た田んぼ、いわゆる谷津田(やつた)である。

もちろん水源はなくなっているから、地下水を汲み上げたり、近くのへらぶなセンターの流れ水を利用しているという。作っているのはコシヒカリ、一反(十アール)で八俵はとれるという。一俵は六十キロ、四反あるというから二千キロ以上の玄米がとれる。田植えをさせてくれ、稲刈りを手伝わせてくれ、という希望者が多いそうだ。ウチは九月早々には稲刈りをし、稲かけをするからうまいんだ、と自慢する。自家用らしい。

逆井を管内に持つ土農協で話を聞く。逆井には田んぼはあまりない、ネギ、カブ、ダイコン、ハシヨウガの生産量が多く、畑ばかり、という。そうだとすれば、この田んぼは逆井にとつては貴重な?景観ということになる。いふなれば私たちの菜園のようなもの、近隣の住人の目を楽しませてくれるもの。その昔、グラマンの飛んでくるなかで、田草取りをしたことを思い出す。

今年四月に発行された柏市勢要覧(かしわ五つの素顔)には耕地面積と農家人口の記載があるのみ、農業には冷たい。あらつぽい計算だが、市民百人のうち一人が農業をしている。ちなみに市職員は市民百十九人あたり一人だそうである。



平成10年8月